

# 思考の発達に沿った正しい学習手順

年齢 0 . . . 1 . . . 2 . . . 3 . . . 4 . . . 5 . . . 6 (小1) 7 (小2) 8 (小3) 9 (小4) 10 (小5) 11 (小6) 12 (中1) 13 (中2) 14 (中3) 15

言葉の習得時期 「 」	論理的文章の習得時期 「. . .そして. . .」	具象 (身の回り) の理解 「. . .だから. . .」	抽象 (仮定) の理解 「もし. . .ならば. . .」	大人と同じ
6年間を使って言葉を正しく自在に使えるように丁寧な親子の対話を心掛ける		3年で正しい学習方法と読解力を身につける	6年間を使って高校受験に対処する(実は小4から高校受験の内容は組み込まれているのです)	
音 - - - 言葉 声かけ・語りかけ	言葉 - - - 文章 絵本の読み聞かせ	論理的思考の形成時期 正しい学習方法の習得	中学で使う基礎概念を ゆっくりジックリ丁寧に 学習する。	応用 入試 実践 対策
<p>反応してもしなくても楽しく言葉をかけ続けることが大切。音から言葉へと導く</p> <p>=====母親の役割===== 情緒の分化 (安定) が5歳~6歳で完了するのでこの時期までは母親との十分なコミュニケーションが最も大切です。特に言葉による十分なコミュニケーションは理解力・読解力の基礎を作ります。 暖かい感情を伴った楽しい会話をしましょう。</p> <p>「速さ」や「知識量」を求めてはいけません (特に0~9才) 不快な感情を生む要素は全て否定的・制限的に働きます 急ぎ立てられ、詰め込まれて愉快になる人間はいません</p>	<p>丁寧な日常会話が大切で、主語を付けたり接続語をつけたりして話をしてあげる。実感を伴わない知識は高学年で悪影響を及ぼすので要注意。</p>	<p>能動的な遊びをさせる十分に遊ばせることが必要であると同時に学習内容が簡単なこの時期に効果的な正しい学習方法を習得する。 どんな勉強方法でもいいわけではなく、毎日の「考える学習」を通じて読解力を養成する。 項目も少なく教科書に何度も復習が出てくるので家庭学習をしていなくてもできてしまう。</p> <p>この時期の深い学習が高学年での伸びを約束する。</p>	<p>突然勉強するようにはならない。さらにこの時期に読解力が不足している場合は授業にさえもついていけない。中学で習う内容と同じなので宿題に出なくても理・社は問題集で復習する必要がある。</p> <p>項目も増え内容も高度なものになるのでこの時期までに正しい学習方法を習得していないと時間が足りなくなる。</p> <p>教科書の中での復習時間が急になくなってしまふ。</p>	<p>作戦を立てて受験する</p> <p>「分からん帳」を活用して自分の弱点を克服 スピードをつけながら 先行学習に移る</p> <p>弱点を作らない勉強方法で 無理なく無駄なく効果的な学習で学習する</p>
<p>系統的教育は不向き 早期教育は能力を制限する 命令口調の会話 x x x 例: ~しなさい。</p> <p>フラッシュカード x x 一方通行の言葉 x x x 例: TV・テープ 全てが情緒の不安定につながる</p>	<p>絵本の読み聞かせを通じて論理的な思考が出来るようにする。ただし、読書の楽しさを実感させることが大切なので、登場人物の確認などはしない。</p>	<p>小3までは「読み聞かせ」も続ける。 どんなに小さな疑問でも、なるべく他人である先生に質問して解決する習慣をつける。 学校の授業を活用するために先行学習はしない。 逆に中1からは先行学習が必要 丁寧に問題を解くクセをつける。 親が教える (他人に質問しない習慣付け) 先生に質問しない x x 質問できない 文章問題をしない 読解力不足で授業が分からなくなる。 参考書を読んでも分からない。 考えない学習の代表である「お粗末3点セット (教科書音読・漢字・計算ドリル) には要注意!</p>		

受験は努力と工夫で突破する!

注意